研究機関名：下関市立市民病院

研究課題名： StanfordA 型急性大動脈解離患者における退院時の歩行自立に影響を与える要因の検討
研究期間：西暦 2024 年 9 月 1 日～2025 年 2 月 22 日
対象材料： □病理材料（対象臓器名：　　） □生検材料（対象臓器名　　） □血液材料 □遊離細胞 ■その他（診療録） **上記材料の採取期間：**　西暦 2016 年 7 月～2024 年 3 月
意義： StanfordA 型急性大動脈解離は胸骨正中切開による外科的手術が一般的であるが、緊急手術であることや分枝灌流障害などの合併症により術後リハビリテーションの進行に難渋し、入院前の日常生活動作（Activities Daily of Living：ADL）に獲得が困難であるケースが存在する。特に、退院時の歩行自立の可否は ADL の自立や自宅退院に関連する重要な要因と考えられるが、StanfordA 型急性大動脈解離患者において退院時の歩行自立の可否に影響する因子を検討した研究は渉猟し得た範囲では明らかでない。退院時の歩行自立の可否に影響する因子が明らかとなれば、術後リハビリテーションを進行するうえで有益である。
目的： StanfordA 型急性大動脈解離患者における退院時の歩行自立に影響を与える要因を明らかにすること。
方法： 当院の患者データベースおよび電子カルテより後方視的に通常診療の範囲内で得られる患者基本情報や医学的情報、手術・周術期関連情報、術後リハビリテーション経過を収集し、データ登録を行う。
個人情報の取り扱い： 患者の個人情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用する。また、研究成果を理学療法関連学会で発表するが、患者様個人を特定できる個人情報は含まない。
問い合わせ・苦情等の窓口： 〒７５０－８５２０ 山口県下関市向洋町一丁目１３番１号 下関市立市民病院　リハビリテーション部　月城　一志 TEL　０８３－２３１－４１１１　　FAX　０８３－２２４－３８３８